項目	内容	回答
計画終了時の目標値	目標値を設けることは非常によいことだと思います。満足度をどのように図るかも当初より議論し、内容を定めておくことと具体的活動に結びつきやすく、また市民サイドも理解しやすいです。	第2期観光基本計画については、平成18年から27年までの計画期間中は、経年変化を測るため現在の指標を使用して参りますが、第3期観光基本計画策定時には適切な指標の測定法も併せて検討してまいります。
計画終了時の目標値	花火大会の目標はないのですか。	幾つかのイベントも同様にですが、花火大会に限っての目標を定めるということはありません。
その他	鎌倉市内の荒れた寺の復興してほしい。	ご意見を関係者にお伝えいたします。
公衆トイレ	高速道路に負けないトイレの設置の研究してほしい。	市としても「ネーミングライツ」付与によるトイレの維持管理などの方策の推進により、利用者が満足できるトイレの実現に努めて参りたいと考えています。
市民活動	道路の雑草を取り、花を植える市民活動など、住民にとっても付加価値のある活動をお願いしたい。	まちをきれいにするという行為は、まさに「住んでよかった、訪れてよかった」まちの具現化に資するものと考えますので、関係機関と協力して推進してまいります。
公衆トイレ	鎌倉のイメージに合ったトイレを市民募集し、トイレ及び観光案内の管理は福祉協会の協力(雇用の創設)等、鎌倉住民にも還元される内容をお願いしたい。	公衆トイレの整備・改修につきましては、計画的に行っているところでありますが、市民や観光客より随時寄せられたご意見を設計に反映しつつ進めています。また、一部公衆トイレについては、その維持管理をNPO法人をお願いしています。
推進体制のイメージ	市長は市役所のトップかもしれませんが1人です。例えば市長(取り纏め課、観光課)とか表現することにより市役所内部の責任部署を明確にして頂いたほうがよろしいのではないのでしょうか。どうしても縦組織になりがちですが、取り纏め部署を作り、役所内部の責任を明確にしておくことが推進につながると思います。何かあれば市長に連絡では市長もお忙しいでしょうから話が進みません。	特に記してはおりませんでしたが、取りまとめ課は観光振興推進担当であり、基本計画の毎年の進捗状況等も取りまとめ、チェック機関である鎌倉市観光基本計画進行管理委員会に報告をしています。
PDCA	PDCAを導入するのは非常によいと思います。国が海外の政府を支援する際その土地に関係するいろいろな関係者にできるだけ参加を促す方法で効果的な援助を進めております(PCM; Project Cycle Management 参加型計画手法とモニタリング・評価手法)既にご存知かもしれませんが参考になると思います。PDCAを多くの利害関係者に加わっていただき具体的に進める手法です。	PCM手法における「参加型計画手法」は、この観光基本計画でうたっている取り組みのイメージと合致しているところであり、鎌倉市内の観光関係主体からなる「鎌倉市観光基本計画推進協議会」の場を活用してこれを進めてまいります。
全般	見直し内容を各ページで改定案と表示し、また変更のポイントが明確で是非に良かった。他の案件もこのように示していただけると市民サイドの意見が言いやすいように思いました。	これからもできる限りわかりやすい資料作成を心がけてまいります。

全般	多くの観光客とそこに住む住民に関してですが、自家用車、業務用車、公共輸送機関、自転車、人、パーキング、駅、バス停、歩道等の移動手段と観光客の流れ、住民の流れのイメージが少しわかりにくかったと思います。	交通政策については一朝一夕で解決できるものではないため、短期的な具体的アクションについては記述が少ないところです。今後とも望ましい観光客・住民の流れについて検討してまいります。
全般	実施内容についてですが、項目を中心に書かれており、市民はつい色々なことを期待してしまいます。逆に役所にとってはそうは言っていないと言えるかもしれませんが、いろいろな方が関係するので目標期限や、もう少し具体的な内容にさせていただいたほうが、住民の目線と役所の目線、関係者の目線が合うように思います。	当基本計画の実現に資するための個々の市が行う事業についてはアクションプランとしてまとめています。多岐に渡りますので、計画本文には個々の事業の具体的内容までは記してありませんが、着実に実施してまいります。
着地型観光	着地型観光への取り組み、プロモーションの実施等についてご提案させていただきます。 着地型観光は民間の旅行会社としては、取り組みにくい旅行形態だと思われまます。地域にもよりますが、経費に見合うだけの売り上げの恒常的な確保等々、厳しい数字の壁があるかと思われまます。私どもは、NPO法人の旅行業登録による着地型旅行の造成、販売を通して、経験豊富な旅行業界での定年退職者等の活動参加を促し、寺社、運輸機関、ホテル、観光土産店、飲食店等々観光関連業者への観光客誘致による還元、NPO法人としての活動資金など、幅広く積極的、長期的に活動していければと考えています。 着地型旅行の宣伝方法としては、主にWEBサイトを中心として動画による情報発信、鎌倉観光専門のインターネットTVスタジオをつくり、観光動画制作からインターネットTV放送(USTREAM等)により、世界へ向けて発信、着地型旅行への集客を図ります。	着地型観光は、地域のことをよく御存じである、当該地域の主体が行っていくことが重要かつ効果的であると考えまます。したがって、ご提案のようにシニア層の経験者がNPO法人を組織し、事業を行っていくというのは、これからの事業形態として極めて有望だと考えまます。市としてもこのような取り組みについては、市が有する着地型観光の実施に係るノウハウの提供等の支援をしてまいります。
世界遺産	世界文化遺産登録は本来の意義は貴重な遺産を世界で協力して危機から守るためのものであって、観光や産業振興のものではない。これははっきり市として、認識してください。よって市税及び職員がこの登録を積極的に行うのは、言語道断です。市長としてはメルクマールにはなるでしょうが、そんなことを市民は期待していません。	ご指摘のとおり、世界文化遺産登録は貴重な文化遺産の保護を第一義として行うものであり、観光のために推進するものではありません。しかしながら、世界遺産に登録された直後に観光客が増加する可能性も高くなっておりまます。増加する観光客への対応をあらかじめ図っておくことは、市民のためにも必要不可欠と考えておりまます。
観光振興の是非	観光によって、市民が享受できるものは、観光客に比し非常に少ない。国家的課題であるからといって、市の行政が市税を予算化して追隨することは、まったくおかしい。(鎌倉は普通地方交付税が交付されていない財政事情でもありまます)	今後、少子高齢化、産業構造の変化等の要因により、国全体として「にぎわい」をいかに創出していくかがテーマになると考えまます。鎌倉市においても財政構造は変化していくものと思いまますので、持続的発展が可能な産業の一つである観光の振興は、今後の鎌倉市を考えていくうえで欠くことのできないことと考えまます。

その他	鎌倉は日帰り、繰り返し等特殊があるなら、自然のままに穏やかなままがよいでしょう。	今後とも、日帰り、繰り返しの訪問という観光形態のままであっても、いかに経済効果を高めていくかについては検討していくべき課題であると考えています。
経済効果	アンケートは八幡宮・銭洗いで大人のみ(修学生には聞いていない)に行っているとのこと(観光課でお聞きしました)一人のひとが落とす金額が3000円前後とか、これに年間観光客をかけて、これだけ経済効果がある(観光課の弁)との論は統計学からいっても、まったく稚拙。	市への年間1950万人の入込観光客数は、延べ人数であることから、消費単価×延べ人数という計算では確かに正確な経済効果は算出できないものと考えます。観光が市にもたらす経済波及効果等のデータの必要性は認識しており、現在、経済波及効果を測定する方法の検討を行っているところです。
公衆トイレ	寺社は何も(税法上無税)負担させずに、寺社内施設改善に協力することは、中止すべき(トイレ等)。寺社は裕福なので自助努力で手当てすればよい。	鎌倉への観光客の多くは寺社への観光を目的としているため、その利便性の向上のためには寺社にトイレを整備することは必要です。そのため、寺社から土地を無償提供していただき、観光客のためのトイレを市において整備しているところです。寺社の境内においても、誰でも利用できる場所に設置しています。
その他	市民が最も身近な観光客というのは、まったくのあとづけの詭弁です。今後使用しないでください。	鎌倉の良さを市民の皆さんに改めて認識していただくためにも、市内への「観光」は推奨してまいりたいと考えます。
推進体制	行政や事業者、市民をはじめとした観光に取り組む多様な主体が対等に連携し地域全体を活性化していく姿勢を共有化していく推進体制を構築していくことが大変重要になります。とありますが。なぜ大変重要なのかまったく説明がありません。そもそも市の行政は地域住民(他の地域の業者が出店しているのは外すべき)に資するのではないのでしょうか。行政や事業者、市民ではなく市民、地元事業者、行政と書くべきでは、なんで行政が最初にくるのですか、まったく理解できません。	行政のみ、または事業者のみの推進体制ではなく、市民を含む三者での推進体制であることが必要であるという意味です。本計画については、市が事務局となり作成しているため、計画の作成主体である市を主語としています。
全般	観光とはなにか、今一度考えなおしてはいかがでしょうか。政治とは希少資源の権威的配分です。鎌倉市の行政(地方自治)は国と異なる視点で行うことが肝要です。地域全体で観光振興に取り組む姿勢を共有し、その推進を図ることには反対します。観光都市の魅力と独自性に関する意識というのは、市の独自性をいっており、観光を言っているのではないことを認識してください。市民意識調査の文章を推敲しましょう。観光振興に都合の良いような文章にはしないでください。	市民意識調査における設問は「鎌倉市は、観光に高い魅力と独自性のあるまちだと思いますか。」となっており、その判断の対象を「観光」としているところです。

経済効果	観光客から得る収入—飲食、宿泊、拝観・入館、交通費などの実績が、現状をどう認識し、今後の計画策定にあたっては、絶対的に必要なもの。	これまでの鎌倉市における観光振興策においては、産業としての観光という観点が必ずしも強くなかったのは事実です。今後は基礎的データの収集の充実に努め、より効果的な観光振興策を策定してまいりたいと考えます。
経済効果	観光客の分析、観光目的の分析—男女・世代・国別外国人数等々	
経済効果	市の財政的観点からここから得る税収を計り、産業としてどう育ててゆくのかの議論が必要。	
全般	残念ながら「国際的に知られる観光都市」とはいえないと思います。	国内の知名度に比し、海外での認知度はまだまだ低いと考えられますので、いわゆる「シティプロモーション」が必要だと考えています。
全般	従来の観光目的を「単なる物見遊山」と表現しているのには違和感を覚えます。	過去の観光を指す際に一般的に良く使われている言葉であり、現在の状況を指すものではありません。
全般	最近の目的が体験・交流への志向が高まっている、と書かれていますが、根拠は。	各種の調査結果や多数の地域における取り組みなどからうかがい知ることができます。
基本理念	第1期から継承する「観光を通じたまちづくりと人づくり」が計画の目的として適当か。繰り返してでてる「住んでよかった。訪れてよかった」と併せて、目的としてはわかりにくい。前期の評価で、この2フレーズについて「理解が不十分だった」と書かれているが、何が不足して理解されなかったのか、何をすれば理解されるのか。「目的」としての「表現」に問題はなかったか。「評価」として書かれているのは以上の点のみで、あとは「前期の評価」とは離れた、これからこうすべき、というような内容が多く、結果的に後述される項目と重複が多くなっている。「前期」の徹底した反省を踏まえて、見直し(案)は、後の議論に耐えるものでなければならない。	本計画は、観光の視点から策定されているものであり、記してあるとおり、最終的な目的は「観光を通じたまちづくりと人づくり」であると考えております。スローガンとしてのこの二つのフレーズが、必ずしも計画全体を通して「骨太の方針」として貫けていなかったのではないかとこの自戒の念から、「理解が不十分だった」との記述いたしました。
基本理念	「基本理念」にある「鎌倉らしさ」、「鎌倉らしい生活様式」とは、「首都圏に近い観光地」としての一番の特徴は、テレビでの露出です。良かれ悪しかれ、ここで作られた鎌倉のイメージこそが、観光客にとっての鎌倉なのだと思います。観光を「産業」として捉えるなら、これ(宣伝)は大きなメリットです。同時に、このイメージは「住民の住みやすいまち」とは、大きくかけ離れたものといわざるを得ません。安全で清潔で快適な空間づくり、は「市民生活」そのものの目的であり、あえて観光政策の中で語る必要があるのでしょうか。	他の観光都市に比べ、鎌倉市は極めて限られた地域に、そして市民の生活空間に多数のお客様が来ているという状況にあります。したがって、安全で清潔で快適な空間づくりと観光は切り離すことのできない課題ではないかと考え、本計画においても記述しているものです。

全般	<p>繁忙期・閑散期の平準化、新しい観光スポットの創出は可能か。 「産業」として考えると、繁忙期対策は、需要を他に移すことをかんがえるのではなく、より多くの観光客を受け入れる対策を考えなければなりません。そして閑散期対策は、まさに需要の創出以外にありません。水を掛けるつもりはありませんが、これは本当に難しいテーマで、恥を忍んで、私の経験を申し上げれば、コストを1億円かけた企画で1千万円の収入を得るのがやっと、というようなケースがほとんどでした。宿泊客の増、夜間まで観光客を引き留める方策については、これこそが「首都圏に近い観光地」の特徴として、対策を考えるより、計画策定時には、むしろこれ(日中のみ)を前提とした計画にするのも、一つの考え方かもしれません。</p>	<p>鎌倉における観光客の季節的、時間的な平準化や新しい観光スポットの創出は、鎌倉の持つ潜在能力からすればまだまだ可能なものと思います。現在、「みんなの鎌倉遠足」という着地型観光旅行の試行的取り組みを市において行っているところであり、今後とも着地型観光の推進をしていきたいと考えています。</p>
実施主体	<p>実施主体は地域一丸？ 実施主体は、「観光」(含む、飲食・運輸など)を生業(なりわい)とする、観光業者しかありません。 行政は、産業育成の観点での支援、観光客が増えることで起きる市民生活への悪影響から市民を守る対策を講じる。 道を聞かれたら親切に答える、とか、ゴミを拾うとかは、市民としての義務・たしなみであり、これも、敢えて「市民の役割」として述べる必要はないと思います。 「観光客にまちづくりへの理解と協力を」とあるが、テレビを見て鎌倉へ来る人に何を求めるのか？ 観光客は「まちを活性化させる」のか？賑やかにはなるかと思いますが、「活性化」とは違うのでは？</p>	<p>鎌倉市は、住民の生活地域と観光地域が不可分な土地であるゆえ、市民の皆様のご理解が必要です。賑やかになるということは、人流が発生し、経済活動も盛んになっていくことから、すなわち「活性化」であると考えます。</p>
第3章のⅢ－3取り組みの項目	<p>ほとんどが前に書かれている内容と重複していると思います。</p>	<p>再度まとめうえで、次の項目につなげています。</p>
全般	<p>本観光計画は、主に観光者サイドだけの観点から書かれており、市民の視点との複眼的視点から書かれるべきと考えます。</p>	<p>決して観光者サイドからの観点からとはしたつもりはなく、市民をはじめとするすべての主体からの視点で記してあります。</p>
全般	<p>観光事業は、観光客の誘致にとどまることなく、鎌倉市全体の将来にわたる都市イメージの形成や都市構造上の改善、地域産業の掘り起こしなど、まちづくり全体に寄与すべきと考えます。</p>	<p>観光基本計画は、「鎌倉市総合基本計画」の一環をなすものであり、産業に関する方針、交通マスタープラン等とともに、まちづくり全体に寄与する計画の一部として機能するものとして策定されています。</p>
全般	<p>「鎌倉市観光基本計画」には、鎌倉の観光政策についていろいろな側面から様々な方向性が謳われていますが、具体的なアイデアが皆無で、市職員のチェックリストとしては有効かもしれませんが、世界遺産登録を迎えた鎌倉の具体的な観光将来像が見えないことが最大の問題であると思います。</p>	<p>計画には、将来像や目標を記すとともに、併せて個別のアクションも掲げていますが、この計画を推進するために更なる取り組みを進めてまいります。</p>

全般	他市に類を見ない、鎌倉でしかなしえない、国内外観光客の期待を長期的に喚起する、ユニークで大胆な発想が求められていると思います。	ご指摘のとおりです。
鎌倉らしさとは	「鎌倉らしさ」を根幹とする、鎌倉の観光と寺社を中心とする宗教的な価値観は不可分のものと考えています。現在の基本計画における「鎌倉らしさ」の定義にはこの根幹が欠けています。	確かに、いわゆる「鎌倉らしさ」や「鎌倉観光」には寺社を中心とする宗教的な価値観が密接不可分です。これを意識した表現といたします。
観光客数の推移	今回の資料として提示された鎌倉への観光客数の推移(平成11年度を底として毎年増加傾向にある)は、我々の実感からすると違和感のある資料であると感じざるを得ません。	経年変化が掴めるよう、神奈川県観光振興対策協議会が定める方式で毎年入込観光客数調査を行っています。
目次	目次は計画の組み立てが一目でわかるよう、もう少し細かく番号を振り直すべきです。	全体ボリュームからすれば適当であると考えます。
目次	第1章 1 計画の目的と位置づけという項目では、(3)計画の期間と(4)第2期鎌倉市観光基本計画の中間見直しについて が目次タイトルから落とされています。	1 計画の目的と位置づけの項目の中に含まれていますので、欠落しているわけではありません。
目次	第Ⅲ章 アクションプランの、4 項目別アクションプラン一覧は、3の取り組み項目の(3)であり、入力ミスです。	ご指摘ありがとうございます。目次を訂正いたしました。
アクションプラン	また、この一覧表は(2)の主体別の主な取組みが表になっているだけで、目標1、2、3をわざわざ項目にして分解し、表作成を繰り返しているだけです。紙面の無駄で、工夫の余地があります。主体的、支援・協力など、協力・参加などの3つの選択(◎○△)は誰が行い、主体者は承諾しているのでしょうか。なお、アクションプラン一覧の市民・市民団体の枠に空白がありますが、市民協働事業とするならば空白にはならず、むしろ市民の参加が期待できる項目さえあります。	わかりやすくするため一覧表として整理したものです。市民の立場から、ご参画いただける項目についても、具体的なご意見をいただければ幸いです。
位置づけ	観光基本計画と同じ枠内にあるその他の分野別計画との関係は「連携」とあるが、基本計画間に「連携」などという関係があるのか。都市マスタープランや環境基本計画との矢印は何を意味するのか。さらに、それぞれの基本計画のどの部分が関係するかを明示し、Ⅱ章、Ⅲ章の記述の中にもそれらを明示すべきである。その他の分野別計画には産業振興計画、景観計画、交通マスタープラン、緑の基本計画ほかとあるが、「ほか」が何なのか備考等なるべく全てを明示すべきである。位置づけは確としたものでなければならぬ。曖昧な位置づけは曖昧な観光基本計画につながる。	それぞれの分野別計画は、まったく他の分野から独立して存在・実施できるわけではないことから、互いに連携し、実施していくことが必要であるとの観点から「連携」という言葉を使用しております。観光はすそ野が広い分野であるところから、関係する分野が多岐に渡ることから、とりわけ関係の深い分野につきまして例示させていただいております。

基本計画中間見直しについて	記述内容が、社会的な変化に対応するための5つの事項を挙げた「見直しの主な変更ポイント」と一致していません。変更ポイントでは「観光客の安全・安心」と「迅速な行動・意思決定」が1番目と2番目においてあり見直し本案との関係が不自然です。書き手が違って調整ができていないのでしょうか。	見直し本案との整合性を図って修正を行います。
世界遺産	中間見直しの中で「ポスト世界遺産登録の鎌倉市における観光基盤の整備・誘致方策の……新たに重点的に講ずるべき施策が……対応を求められています」「今のうちから世界遺産登録を見据えての対応が必要となっています」など人ごとのような記述があり、世界遺産登録を積極的に評価していないことに疑問を感じる。そのような姿勢で世界遺産登録を見据えても何も出てこないのではないのか。世界遺産登録によって鎌倉の観光は質的にも量的にもどのように変わるのか、検証と評価が不可欠で、その結果を盛り込むのが観光基本計画に課せられているはずだ。	現状では対応できていない部分もあることから、さらなる対応の必要性をうたったものです。また、検証と評価については事後に行われるものであると考えます。
目標値	宿泊客数Cの右に宿泊施設数を入れ、年度別の宿泊人数と宿泊施設数との関係进行分析すべきです。「各種のデータを収集・分析し、適宜公表します」と取り組みに書いているので、実践してください。観光課データとして観光バスの受け入れ台数(駐車場数)やマイカーの受け入れ台数(コインパーキング数や駐車場数)も必要なデータです。	各種データの収集・分析・公表については、毎年、観光分野のデータ集である「実績概要」を作成し、公表しております。ご提案の指数の採択については別途検討させていただきます。
観光客の意識	観光客が何故鎌倉に来るのか、何に魅力を感じているのかの分析が全くなされていない。それでは観光客の満足度を上げていくことはできず、観光客を増やすための方策を打ち出しようがない。世代別に調査を行うことは無論であるが、外国人観光客についても是非調査を行う必要がある。調査の裏付けのない観光基本計画は説得力がない。単純に宿泊客数だけを増やす努力だけでは未来志向的ではない。	日本人向けの調査として、鎌倉への訪問者に対する対面聞き取り調査及び観光課のホームページにおけるWeb調査を行っています。外国人に対する調査については、その必要性は感じておりますので、今後実施する方策を検討してまいります。
第2期観光基本計画の前期部分の評価	文章内にこの評価は進行管理委員会が出した課題と提言とあるので、タイトルにはっきりと進行管理委員会と書くべきです。	ご指摘のとおり、修正させていただきます。
第2期観光基本計画の前期部分の評価	前期部分の評価の項に関わらず、提起された課題・提言とあり真の評価になっていない。8の第2期鎌倉市観光基本計画の推進体制の見直しの項に、「この5年間の動きを検証し、後半の5年間の施策に反映させていくことが当面……」とあるが、それをこの『中間見直し』でやる必要がある。それなくしてどこが見直しなのか。	進行管理委員会から提起された事柄については、着地型観光の実施による観光需要の平準化など、できることから順次取り組んでいるところです。

回遊性	鎌倉観光の大きな問題点は、観光資源相互をめぐる回遊性に乏しく、拠点観光化されていることです。特に最大の観光資源である鶴岡八幡宮と高德院(鎌倉大仏)との間の回遊性がなく、結果、小町商店街の繁盛に比べ、由比ヶ浜商店街の極端な衰退を招いています。そのことが鎌倉の都市をいびつにし、都市政策上の大きな課題となっています。	回遊性が必ずしもないとは認められないと考えます。小町商店街の繁盛は、鎌倉駅から八幡宮へ向かうルートが確立されているからであり、他方、高德院へはいろいろなルートでアプローチができることが、ご指摘の状況の一因と考えております。
計画の策定に向けて	1月21日日経夕刊に「シニア消費100兆円 昨年の個人支出の44%」という見出しが躍っていました。2段落目の「観光客という交流人口を有効に活用していくことがまちの活性化につながり」との発想ではなく、鎌倉の高齢者が地元でお金を落とすような地域振興事業を研究展開すべきです。	研究すべきテーマの一つと受け止め、今後研究してまいります。
計画の策定に向けて	3段落目の「観光がひとつの行政分野ではなく、まちづくりの中心的な課題になってきている」という表現は、鎌倉らしさの基本理念とは相反し、言い過ぎた表現ではないでしょうか。観光なくしてまちは存在しないともいうのでしょうか。	単位面積で比すと、鎌倉市における観光入込客数は、他の観光都市に比べても非常に大きいため、まちづくりのなかで大きな課題の一つになっていると考えています。
取り組みイメージについて	P7に取り組みイメージの絵があり、これまでは観光業界と観光客の関係が主であったものを、市民・市民団体も交えて、各団体がそれぞれの役割を担って連携・協力するとし観光客には鎌倉市のまちづくりの理念を理解し共鳴していただきます。としているが、まさかほっといても連携・協力する状態になるとも思っているのか。何らかの仕組みを中間見直しの中でしっかりと構築すべきである。同じことが「観光客には鎌倉市のまちづくりの理念を理解し共鳴していただきます」にもいえる。何もしないで理念の理解、共鳴などを期待するのか、理解し共鳴してもらうための方策をしっかりと提示すべきである。	多様な主体が対等に連携し、地域全体を活性化していくという鎌倉ならではの観光振興策を観光振興シンポジウムの開催や広報紙などの媒体を利用して発信していくこととします。
II-1 基本理念	基本理念における市民の定義と6ページの市民の定義が違うのでここで改めて市民の定義を示す必要があります。計画全体で市民の定義をきちんと押さえる必要があります。	6ページにある定義といたします。
鎌倉らしさ	『鎌倉らしさ』の語が諸所に見られるが、『鎌倉らしさ』とは何かの具体的な記述がない。P8に解説らしき記述があり、それによれば、「この観光都市と住宅・生活都市の二面性を両立させることと歴史・文化都市としての伝統を継承することが『鎌倉らしさ』である。」「この『鎌倉らしさ』とは鎌倉の魅力形成する……『生活様式』『生き方』のことであり……」とある。後段は抽象的であり具体的には何なのかは分からない。前段の「鎌倉らしさ」にいたっては全く意味不明だ。	この基本計画でいう「鎌倉らしさ」とは、P8のとおり、武家文化の精神性や伝統、歴史的背景を理解した上で大切にしている「生活様式」や「生き方」のことです。

II-2 基本方針	基本計画は鎌倉市の計画なので方針1～5の主体(主語)はすべて鎌倉市ととれる表現になっています。4と5は明らかに鎌倉市の関連事業ですが、表現方法があいまいで誰が主体なのかが非常に混乱しています。	主体の中心は市であります。18ページ以降に記載したとおり、それぞれの主体が役割分担をしつつ、地域一丸となった観光振興を図ってまいります。
II-2 基本方針	各項目は「・・・を図ります」となっているが、具体的に何をするのかの展望を少しでも予感する記述がない。	基本方針は方針の大要を定めたものであり、具体的な行動は18ページ以降のアクションプランに記載しております。
目標とする指標	説明文中の「鎌倉らしさを理解していただけるようにもてなしていくことを目標としており」という表現は「鎌倉のまちを市民・観光客、行政がともに育てていく」とする理念とは相反しているため、修正すべきです。	市民はもてなす、観光客はもてなされるということを通じ、それぞれの立場でまちを育てていくことに相反しないと考えております。
目標とする指標	『「住んでよかった、訪れてよかった」まちづくりと、地域が一体となって観光客を迎え、鎌倉の良さ・・・』とあるがこのような記述は市民的な目線ではなく観光業界の想定する市民の目線である。このような観光業界の想定する市民目線でまとめると、この基本計画が「観光業界と業界に近い人たち」による「観光業界と業界に近い人たち」のための「観光業界と業界に近い人たち」の基本計画になってしまう、多くの市民の共感を得るものとはならない。	この基本計画はすべての市民を対象にしておき、特別に観光事業者を意識した基本計画ではございません。それぞれの立場で、それぞれの役割を果たしつつ、1つの目的に向かって行動していただくことが基本理念となっております。
観光客による実害	「観光客によるマイナスのイメージ」を払拭し「プラスのイメージ」に転換することが重要だとしているが、実害を減らすことこそが必要なのではないか。イメージという言葉でコーティングされた机上の空論に驚かされる。それでは解決の糸口は見いだせない。観光客による実害を減らす方策を実行に移すことができない限り、市民は観光客が増えることに手放して喜べないのではないか。イメージとしてとらえ現実を直視しないような姿勢では意味のある観光基本計画にはなりえない。	鎌倉市内は、観光エリアと居住エリアとが不可分なところが多く、時として観光客による行動が市民の皆様にマイナスなイメージを与えることもあります。そのため、観光客に対するマナーの啓発活動等の実施により、観光客による実害を減らす方策をとっていただくことといたします。また、観光客の来訪による経済効果の増進や鎌倉のイメージアップなどもプラスのイメージ向上につながるものと考えています。
III-1 実施主体	アクションプランで「地域一丸となった取り組みを前提として」とあるが現実とあまりに乖離した前提で、このような前提を基にするアクションプランは非現実的といわざるを得ない。 図では市民・市民団体の隣に行政がいて、右下に寺社が離れています。この見方は正しくありません。住民である市民に観光事業者と同じレベルを要求することになります。市民はできる範囲で観光振興に協力するが、むしろ観光事業者にはお客です。行政は寺社の位置に置き、予算立てなどの業務を真摯に行うべき位置関係に修正すべきです。	この図のそれぞれの位置に特別な意味はございません。真ん中の「鎌倉」を取り巻く各主体を順不同で表現したものです。

推進組織の構成	文章内に有識者懇談会についての内容が皆無ですが、イメージ図の下に説明を入れるべきです。また有識者懇談会との議事録を公開してください。推進協議会への参画数を明記してください。	ご指摘のように、有識者懇談会の概要と推進協議会への参画者数を加えます。また、議事録の公開については、情報公開制度に則って公開いたします。
PDCAサイクル	PDCAの絵があるが、PとDの関係が不明確で、しかもドウ(D)からドウ(D)に線が引かれている。これではP→D→C→AのサイクルをまわさないでPD→PDとなって常にC→Aがなく何を評価し修正するのか不明確なまま、何となく少しずつ変化させていくことになってしまう。この中間報告がまさにそれで、進行管理にPDCAを取り入れるとしながら、全くそのようになっていない。PDCAはCが要で、P→D→C→Aのサイクルを回していくことに意味がある。	ドウとドウの間の線は表の外枠であり、DとDが結ばれているわけではありません。あくまでもPDCAのサイクルを守っていますという表の作りです。図が見にくい部分は修正いたします。
目標1	観光客が多いのが悪いわけではない、それを市民が納得できるように誘導しない観光行政の無策に市民は腹を立てているから、世界遺産登録に関心がないどころか反対する人が多いわけで、いくらでも観光客の受益者負担ということも合わせて知恵を絞る時が来ている。	観光客の受益者負担といった意味では、公衆トイレの有料化等について研究をしているところです。
観光資源の発掘	鎌倉の歴史史跡の整備・発掘はもちろん重要な課題ですが、京都・奈良などに比べ、量・魅力度の上で限界があります。新しい発想で、新たな観光資源を発見、育成する必要があります。	平成22、23年度と、新たな観光資源の発掘に関する事業を実施しており、今後の観光振興に役立ててまいります。
目標2	市民・観光客の安全・安心のテーマが目標に明記されていません。変更ポイントと合致せずバランスを欠いています。	目標2における「イ」がこの項に当たっています。この項において具体的アクションを実施することとします。
車による観光の抑制	バスや自家用車を使った観光客は困りものです。規制できないにしても、はっきりと迷惑だという意思表示をしたらどうか。気休めの「福ちゃん」などやめて車を使う観光客への税負担など、実効性のある条例作成の議論がされるべきでしょう。	現在実施しているパークアンドライドの取り組みとともに、ロードプライシングの仕組み等が取り入れることができないか検討を続けてまいります。
語句の定義	主体で観光協会と商工会議所が関係団体にくられていましたが、突然ここでは観光協会と関係団体が並列関係になっていますが、なぜでしょうか。その都度主体の関係が変わっては計画書の定義が混乱します。	記載の都合上、とりわけ観光振興に関係の深い観光協会を例示し、その他については関係団体とくったものです。

全般	<p>取り組み実施後の「観光客(来訪客)への効果」が具体的に書かれていますが、目標とする指標に市民の意識を挙げながら、「市民への効果」として具体的な検証がありません。「住んでよかった」まちの検証こそ大事です。</p> <p>この計画は「鎌倉らしさ」を強調しながら、観光客に片寄っている部分が多く、計画書全体から不完全さとバランスの悪さを感じます。</p>	<p>第2期観光基本計画については、平成18年から27年までの計画期間中は、経年変化を測るため現在の指標を使用して参りますが、第3期観光基本計画策定時には適切な指標の測定法も併せて検討してまいります。</p>
アクションプラン一覧表⑤	<p>関連する鎌倉市の取り組みのうち、「観光の経済効果による市財政への寄与度の算出(観光課)」が記載されていません。</p>	<p>基礎的データの収集から始め、より効果的な観光振興方策を策定してまいりたいと考えます。</p>
観光の概念	<p>観光都市が生活都市でないという都市は稀有であり、対立する概念ではない。</p>	<p>対立ということではなく、両立を目指していくということです。</p>
鎌倉らしさ	<p>「鎌倉らしさ」の説明として、世界遺産を意識してのことと考えるが、武家文化の精神性を入れることには疑問を感じる。</p>	<p>「鎌倉らしさ」を表現する際に、武家文化の精神性や伝統を語ることはむしろ自然であると考えます。</p>
インバウンド	<p>インバウンド観光を目指すのではなく、インバウンド観光に対応できる基盤作りとしてのまちづくりが長く鎌倉の観光を支えていくものである。</p>	<p>ご指摘のとおりです。インバウンド観光に特化するということではなく、誰でもお越しいただけるユニバーサル観光のための基盤づくりが必要であると考えています。</p>
寺社の参画	<p>武家文化を意識するのであれば、寺社の存在は唯一のものである。寺社の方々に街づくりに参加願うことは必須。</p>	<p>鎌倉への来訪者が最も多く訪れる場所は寺社であるため、鎌倉の観光を考える上で寺社のご協力は必要不可欠です。市といたしましても寺社の関係者との意見交換の場を設定し、まちづくりへの参画をお願いしているところです。</p>
潜在的観光資源の開発	<p>大船、山崎、西鎌倉、腰越等の地域においてもまちづくりの意識を共有し、潜在的な観光資源を開発していくことも必要。</p>	<p>地域の観光資源を素材とした着地型観光を推進していきます。</p>
海の家	<p>海水浴場を観光資源とするならば、「海の家」のあり方について市民が話し合う機会を早急に設ける必要がある。関係者が本気で議論し、「住んでいる人にも訪れた人にも良かったと思われる海水浴場づくり」が不可欠。</p>	<p>海水浴場への入込観光客数は95万人と非常に大きく、重要な観光資源の一つです。海の家のあり方については、市としても設置者と連絡を密にしており、よりよい海水浴場の実現に向けて話し合いを進めています。</p>
アクションプラン	<p>旅行者に提供する様々な情報は集約し、案内所に掲出やホームページに投稿する等して旅行者がいつでも見られるようなサービスを提供する。</p>	<p>市で収集した観光関連情報については、ホームページへの掲載や、ツイッターを通じタイムリーな情報提供に心がけています。また、観光案内所にも情報を提供し、必要に応じ、掲出等を行っています。</p>

鎌倉検定	「鎌倉検定」を行う目的の明確化をすべきではないか。鎌倉案内スタッフ養成目的の為とか。鎌倉に対する個人の興味を満たすためだけの目的なら受講料は高過ぎないか。	「鎌倉検定」については、鎌倉商工会議所が独自に行っているものであり、実施の趣旨は、この検定を通じて、一人一人が鎌倉の素晴らしさを再認識し、より多くの方々が”鎌倉ファン”となっていいただくことを目的として実施しているものです。必ずしも案内スタッフの養成のために行っているものではありませんし、そのような特定の意図はございません。
イベントの主体	夜間や早朝イベントを実施するための仕組みづくりの、内容、主体が不明。	イベント実施主体は必ずしも市が主導する形を考えているわけではありません。観光関連施設、商業、飲食、宿泊等の事業者等の自主的・積極的な実施を期待しているものです。
資源の基準	これまで必ずしも活かされてこなかった資源について、市が観光資源と断定するための基準を設けることが必要。	現在試行している鎌倉における着地型観光のコースにおいても、その素材として会社訪問など、今までであれば鎌倉における観光の素材となりえないようなものを取り上げています。ありとあらゆるものが観光資源となり得ることから、市として特に基準を設けることは考えていません。
物産展等への参加	百貨店で開催される物産展への積極的な参加。	毎年鎌倉で姉妹都市物産展を開催しておりますが、他の物産展等への参加についても検討してまいります。
案内所	市内各所に案内所を設置し、質問や困ったことが起こったら相談、すぐに対応してくれる体制を作る。	市内各所に案内所を設置することで、来訪者の利便性が向上するものと思われまます。現在、北鎌倉地域におきましては、観光案内施設の設置について検討しているところです。
歩道	現状、鶴岡八幡宮から鎌倉方面または金沢方面へ通じる街道の歩行者道路が狭隘である。	歩行者道が狭隘であることは大きな課題として認識しております。市全体の道路整備や交通政策の中で対応を検討してまいります。
ごみの持ち帰り	ごみは旅行者の持ち帰りは難しいため、ごみ箱の設置と清掃担当者の定時巡回と回収が必要。	ごみ減量のための取り組みとして、ごみ箱を設置しないことで、ゴミの持ち帰りを推進するという方式を取っています。現在は、ごみ箱を設置していた時よりはごみの量は減少していると認識しています。これからもあらゆる機会をとらえ、鎌倉観光におけるゴミの持ち帰りをお願いを続けてまいります。
トイレ	トイレの協力は、コンビニエンスストアなら可能であろうが、個人商店での利用協力は困難。	現在、市内のコンビニエンスストア3社にご理解いただき、トイレの提供をいただいているところです。また、協力店の絶対数を増加させるために、平成24年度には「トイレ協力店」制度を検討することとしています。

歩行者天国	特定区間で場所、時間帯を決め、一般車両を締め出す「歩行者天国化」を実施し、その間は公共交通機関の利用を願う。	現在も、初詣や花火大会など大規模な催事が実施される場合には一般車両の通行の制限を行っています。また、「小町通り」についても休日に車両制限を行うことで、歩行者の利便の向上を図っています。さらに、交通問題の解消を図るため、平成24年度に立ち上げる、市民や関係団体の代表、交通事業者等からなる鎌倉市交通計画検討委員会において交通混雑の解消に向けた施策を検討してまいります。
今後に向けての課題・提言	アクションプランの主体別の主な取り組みに、「点から面への連携強化」、「観光需要の平準化」、「推進体制の見直し」について具体的記述がない。	「点から面への連携強化」、「観光需要の平準化」については、市で推進している着地型観光により具体的なアクションをとってまいります。また、「推進体制の見直し」については、すでに平成23年4月に、15ページの図表にあるような推進体制へと見直しを行っているところです。